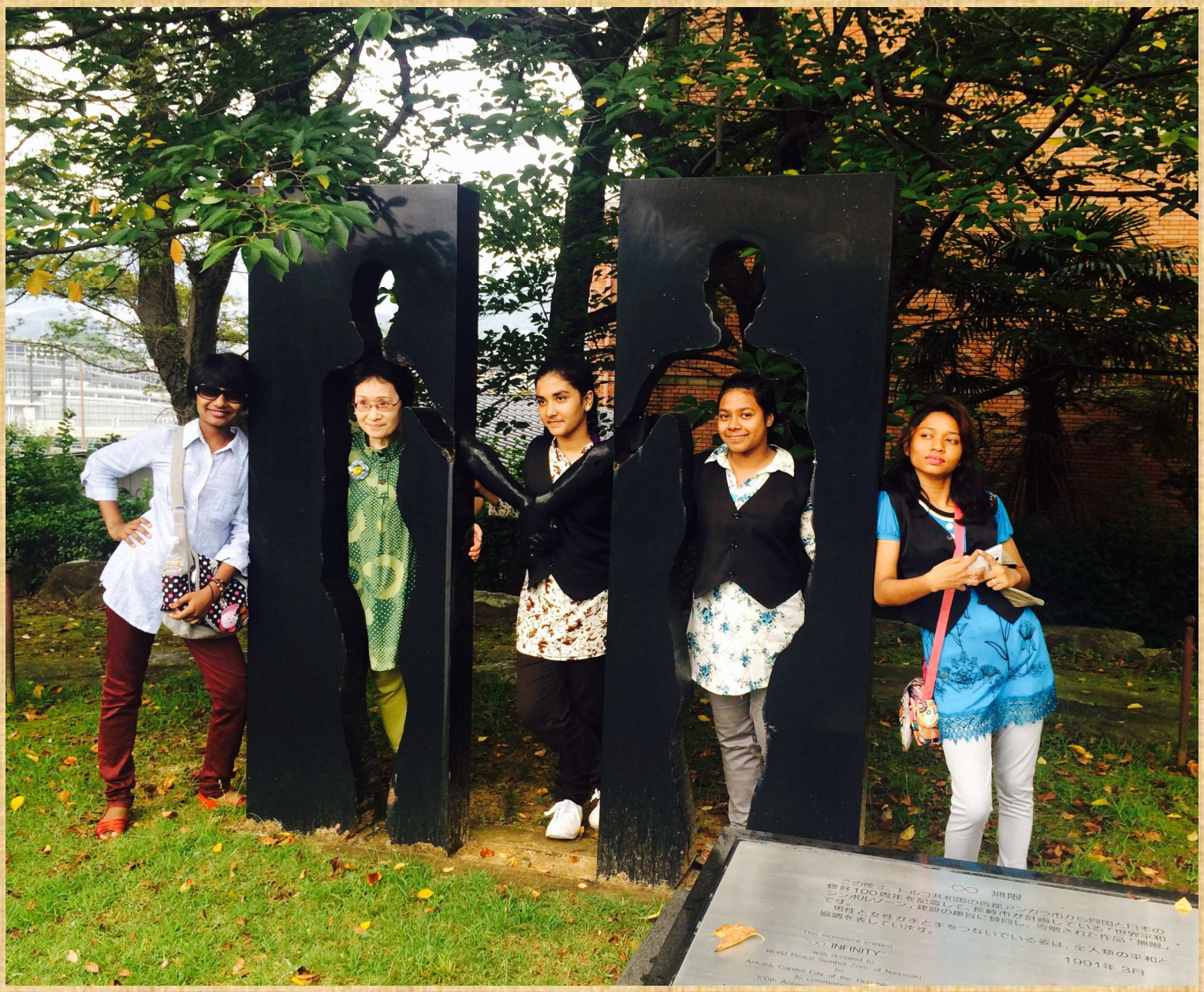


Milon

2016 Jan No.138

特集 ションダニのこどもたちとの交流会

（特活）バングラデシュと手をつなぐ会　広報誌

代表挨拶

バングラの今・・立ち止まって考える

2014 年 6 月に現地を訪問してから、1 年半が過ぎました。
看護学校建設プロジェクトは着々と進み、夏の開校まで半年余りとなりました。今年の開校に向けて、昨年末に現地訪問を企画していました。12 月 1 日から 10 日までという日程を決め、10 月初めにインターネットで 4 人分のチケットを購入しました。ところが、直前の 9 月 28 日にダッカでイタリア人が殺され、さらに 10 月 3 日に北西部の農村で日本人が殺されるという事件がおきました。いずれもイスラム国の犯行声明が出されています。容疑者が逮捕されたとのことですが、真相は解明していません。外務省から「不要不急の渡航は自粛するように」というレベル 2 の地域に指定されています。その後も、宗教施設での爆発や、外国人の殺害事件がおきているようです。
バングラデシュはイスラム教の国です。国民の約 9 割がイスラム教徒です。当然のことですが、大多数のイスラム教徒は信仰心厚くおだやかです。また日本はバングラデシュへの最大の援助国であり、国民も親日的です。私たちも 25 年間、何度も現地ツアーを行っており、いろいろな事件に出くわしましたが、生命の危険を感じるような事態は経験していません。村では現地の警察などがしっかりと私たちの警護にあたってくれますし、何より村人は本当に私たちを信頼してくれています。ションダニ病院の庭には、大木松子さんを偲ぶ碑が建てられました。現地訪問の時の交流会では、大木さんが訪問した頃の思い出を劇にして演じてくれます。『カラムディ村が私の第 2 の故郷よ』と言っていた大木さん。それに村人たちも心から応えてくれます。
前記の様な事情で、今回は現地訪問を断念せざるをえませんでした。近いうちにまた、安全で安心できる、そして村人たちや子どもたちと、心からの交流ができる現地訪問が再開できることを願っています。
また、看護学校建設プロジェクトはこれまでどおり、力強く続けていきます。
引き続き、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

（代表　二ノ坂　保喜）

目次

1　代表挨拶/目次
2　特集 ションダニのこどもたちとの交流会
4　看護学校建設の現状/開校予定時期/開校までの予算
5　認可申請手続きについて/ニコニコ募金の紹介/感謝!!ヘアーサロン光さん
6　イベント報告
◆バングラデシュ・スケッチ展　◆さわら地域チャリティひろば
◆バングラデシュにおける日本の科学技術教育協力・助成とは
◆地球市民どんたく 2015　◆小林レイ子さんを囲む会
9　カラムディ村だより/ションダニ病院/助成金関係
10　会計報告/チャリティ CD「ふるさと」の紹介
裏表紙　事業内容/今後の行事予定/看護学校建設プロジェクト事務局から

ションダニのこどもたちとの交流会

「夢みるこども基金」と書かれたポスターを、日本から遠く離れたバングラデシュ・ガンニ市の電柱で見つけた時の溢れる想い！感動が昨日のことのように思いだされる。「日本でいろんなことを学び国の為に役立つNGOの仕事をしたい！」と、マイクを握った11歳の女の子は、瞳をキラキラ輝かせこのようにスピーチをした。その子の名前はタニンちゃん。そして1年後、本当に日本にやってきた！
こどもたちが将来なりたい夢は、タニンちゃん:今は科学者、セトゥちゃん:弁護士、アニカ、ラボニーちゃん:医師、フェルドース君:クリケット選手だそうです。夢は、果てしなく、彼らは目標に向かって進んで行くことでしょう。これを機に「夢みるこども基金」と「バングラデシュと手をつなぐ会」が情報を共有し物心両面の支援を心がけることでバングラのこどもたちの未来が明るく、バングラのより良い社会をこどもたち自らが担い手になるよう見守りたいと思います。(河村)

8/24　大名・サーガルにて
「バングラカレーに舌鼓！オーナーとベンガル語で会話が弾むこどもたち」

8/23　西南学院大学にて
「2015年 夢みるこどもキャンペーン 日本とバングラの夢と絆の架け橋　日本の浴衣を着て嬉しそうにはしゃぐこどもたち」

表紙の写真について（長崎平和公園・平和祈念像「無限」8/24）

「男性と女性が手をつないでいる姿・全人類の平和と協調をあらわしている」
長崎原爆資料館に於いて: 暗い館内を原爆投下前の長崎の街や風景、投下直後の長崎の被爆の惨状をこどもたちと見て回っていた。すると私の手を「ギュッ」と握りしめたまま一緒に歩くこどもがいた。弁護士になりたいといっていたセトゥちゃんだった。原爆で破壊された建物の残骸などがたくさん展示され、併せてビデオも色々流されており、焼死体など、かなりショッキングな内容も多い。原爆の悲惨さがひしひしと伝わる。怖かったでしょう。
それらに目を背けず見ているその真剣な眼差し、伝わる手の温もり、遥々海を越え、ここ長崎にいる彼らは、きっと何かを感じたに違いない。長崎平和公園、原爆資料館を彼らが訪問したことは、一生忘れることはないでしょう。（河村）

バングラのこどもたちとふれあった菊池恩恵さんからのメッセージです。

バングラデシュから福岡に 5 人の中学生がやってきました。国の中西部、インドと国境を接する、山も海もないメヘルプール県のションダニスクール。「夢みるこども基金」が支援し 1999 年に小学校を開校。その後、中学校、高校と県内随一の学校として発展して、これまでに 1350 人の生徒を送り出してきました。その中学校から、大きな目をキラキラ輝かせた明るく利発で元気な生徒と副校長が来日。日本の「夢みるこども」たちとの交流や日本の自然、盆踊りや食文化を体験して、25 日の台風直撃のなかを無事に帰っていきました。彼らを迎える日本側の責任者ラフマンさん御夫妻とお嬢さんのシャハナさんもまたすばらしい人物。バングラデシュに行ってみたくなりました。

日本歯科新聞
<発行所>
日本歯科新聞社
〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-10-1
電話03(3234)2475

行きたくなる
歯科医院 ⑱

(株)コムネット社長 菊池恩恵
http://www.comnt.co.jp

ベンガルから来た子どもたち

8月下旬、バングラデシュから大きな目を輝かせた子どもたちが来日した。福岡と佐賀を会場に開かれた「夢みるこども基金」のイベントに参加する「基金学校」ションダニ・スクールの中学生が5人、11歳のタニン、12歳のフェルドース、13歳のラボニー、そして14歳のセトウとアニカ。それに引率のビッシャシュ副校長(45)。「海も山も初めて」、「北海道の1.5倍の国土に1億7千万人が住む人口密度世界一の国から来ました」と自己紹介した。

この学校は、同基金が1997年から資金を寄贈して、2006年までに小、中、高校が開設され、現在1315人の生徒が通うメヘルプール県で随一と評判の学校に発展している。

イベント初日、子どもたちは日本側の「夢みるこども」の小中学生とともに、佐賀の国有林にある「基金の森」で記念植樹を行い、深い森の自然を楽しんだ。

2日目は福岡で浴衣に盆踊りを体験し、バングラデシュの学校生活を寸劇で紹介した。意見交換の合間に披露した民俗芸能は目にも鮮やかな民族服に躍動感あふれるダンスで参加者を魅了した。一人一人マイクを握ったスピーチも素直で心がこもっていた。

子どもたちは「日本に来る夢がかなった」、「街の清潔さ、時間を守る生活に感動した」、「学んだことを国づくりに役立てたい」と語り、口々に「また来たい」と瞳をさらに輝かせた。

日本側責任者のラフマン・モクレスール氏は「基金のおかげです。このような国際交流が実現したことはとても意義深いことだと思います」と感慨深げに語った。

歯科の不用金属を生かす事業は今では歯科医師会や自治体などでも行われている。しかし、単なる寄付ではなく発足以来「こどもの夢」を応援し続けている同基金の活動は「歯科の社会貢献」として特筆されて良い。なぜなら「歯育て」は子育てにつながっているのだから。

閉会のあいさつに立った「夢みるこども」1期生の長尾怜美氏はこの活動の中で歯科医師の道を選んだ経緯を語り、協力歯科医院への感謝の意を表明した。

ベンガルの子どもたちが運んできた素晴らしい笑顔と「夢」を一人でも多くの歯科医師に届けたい。彼女の言葉にはその思いが込められている。

菊池恩恵さんは、歯医者さんをサポートする会社(コムネット)の代表を務めながらジャーナリストとしても活動中。患者の QOL 向上に向けて食育弁当や、講演会前にみんなで「あいうべ体操」をするなどユニークなデンタルサポートに取り組んでおられる。
長年「夢みるこども基金」を応援し、こども会議や夏のイベントに参加し写真や記事を歯科新聞や雑誌に掲載してきた。菊池氏が追い求める画像は、(人間の笑顔、花などの植物、風景など動と静)どれも美しく優しさが滲み出ており写真を見ていると菊池さんのお人柄が分かり、心から癒されます。(河村)

今回、こどもたちが来日し、そのすばらしい笑顔や学校で学んでのびのびと成長している姿に接してとても感動しました。また会いたいこどもたちです。これからの成長がますます楽しみです。(菊池)

【看護学校建設の状況】

2015 年 12 月末現在、建設工事はほぼ完了。当初、5 階建てにする予定だったが予算関係でとりあえず 3 階まで完成し、開校する予定。ドアや窓の設置工事、床、電気配線工事などは完了している。現在、窓のサッシに色を塗る工事が行われている。それが終了次第、最終的なペンキ塗りをする。建物の入口部分の床の工事、校庭の整備工事は最後に行われる。現在、建物の両端にトイレの建設工事が実施されている。室内にトイレの骨組みができているが、便器や洗面台、電気や水道工事はこれからの予定。先に西側の工事が行われており、建物の外に排泄物がプールできるような井戸掘り工事が完了、水が溜まる 2 つの井戸の工事が継続、1 月半ばころまでに終わる予定。今のペースで行けば 3 月中旬までにすべての工事が終わる見込み。それから設備を購入する。

（内装工事の様子）

【開校予定時期】

今年、政府は看護学校への入学時期を定めている。今まで私立学校は自由に学生募集を行い、8 月頃に入学手続きを完了し、授業を始めたのである。しかし今年から国立看護学校の募集が先に行われ、その後、私立学校の募集を行うとのことである。日本とまったく逆。そうなれば 7 月に募集、8 月に入学、それから授業開始というスケジュールになる。「オープニングセレモニーに日本からたくさんのお客さんを迎えたい」とショーンダニスタッフが言っていた。

【開校までの予算】

・建設費：840 万円
・税金（VAT）：300 万円
・設備（椅子、机、本棚、図書など）：490 万円
・人件費：410 万円
・申請料：460 万円

合計 2,500 万円かかる。
そのうち申請料の 460 万円はショーンダニが預貯金から負担。入学金や授業料から約 270 万の収入の見込み。手をつなぐ会の負担額は 1,770 万円。

【看護学校の認可申請手続きについて】

すでに申請に必要な書類作成を開始しており、2月に提出予定です。職員のみんなは素人なので、ほかの看護学校の協力を得ながら書類を作成しています。看護協会のアドバイスを受けることもあります。看護協会や厚生省は申請書を受け取った後に書類審査を行い、現地検証をします。おそらく数回に渡るものでしょう。すべてスムーズにいけば、今年6月ころに認可がおりる予定です。

ニコニコ募金について

バングラデシュと手をつなぐ会　看護学校建設プロジェクトでは、
活動の趣旨に賛同し、事業を支援してくださる個人、または団体を募集しています。

自動引き落としで
手軽に！便利に！
国際協力

ご希望のコースが選べます
1,000 円/2,000 円/3,000 円

《お申込方法/システム》

① まず、ゆうちょ銀行に口座が必要です。
② 所定の「自動払込利用申込書」にご記入ください。
　備考欄でご希望のコースをお選びください。
③ 添付の封筒で、看護学校建設プロジェクト事務局宛にお送りください。
④ お申込の翌月から、自動引き落としが開始されます。
　毎月 25 日に、ご指定のゆうちょ銀行口座から
　ご指定の金額が自動引き落としされ、募金となります。
⑤ 毎年 3 月までの募金合計の領収証を、4 月にお送りします。

※ このシステムは、お申込の翌月から 2019 年 4 月まで適用されます。
　ご不明な点は、看護学校建設プロジェクト事務局までお問合わせください。

チャリティヘアーサロン Nino ご協力ありがとう！！

藤本さんご夫妻が経営している『ヘアーサロン光』（飯倉）では、2013 年 9 月以来、2 年余りにわたってバングラデシュ看護学校建設プロジェクトに協力していただきました。毎月第 4 月曜日の午後をチャリティの日としていただき、お客さんに格安でサービスを提供、しかもその売り上げをすべて募金として寄付していただいたのです。他の日でもお客さんが希望すれば、その売り上げの一部を募金に充ててくれました。また、ヘアーサロン光には、会の広報誌『ミロン』も置いてあり、ご夫妻が入れてくれるおいしいコーヒーを飲みながらお客さんたちが手にとって読むことができます。

ヘアーサロン光のチャリティ活動も、今年の 3 月までとなりました。藤本さんご夫妻に、これまでのご協力に対し、心から感謝申し上げます。（二ノ坂）

イベント報告

◆バングラデシュのスケッチ展開催（6～8月、9月）

済生会飯塚嘉穂病院のご好意で 6 月から 2 ヶ月間、同病院の待合室、図書室、緩和ケア病棟などにバングラデシュとネパールの風景の水彩画を展示していただいた。同病院は飯塚市内から５ｋｍほどの南西に位置する太郎丸という地区で、小高い丘の上に平成 19 年に建設された。約 200 床を有し、209 名の職員が働く。正面玄関を入ると吹き抜けの大きな広間。ゆったりとした気分にさせてくれる。部屋の周りには人口池が配置され、癒しの場となっている。会期中の 7 月 14 日には二ノ坂代表により「いのちを受けとめる町づくり～途上国のいのちに目を向ける」と題して講演が行なわれた。看護師を中心に約 70 名もの参加者があり、とても参考になったという声が多く、大いなる刺激となったようだ。（牟田）

去る 9 月 10 日～20 日の 10 日間、穂波総合福祉センターにて同スケッチ展を開催。ネパールの風景約 30 点、バングラデシュの風景 8 点、その他合計 60 点を展示。センター側の好意で看護学校建設支援のための募金箱を設置していただき、見に来ていただいた皆様から合計 19,600 円の募金が集まりました。この場を借りてお礼を申し上げます。ご協力ありがとうございました！（牟田）

◆さわら地域チャリティひろば（10/4）

10 月 4 日に、秋のチャリティひろば・コンサート&バザーを行いました。今回は野芥地区の運動会と日程が重なってしまい、いつもよりもお客さんは少なめだったのですが、運動会を抜けてバザーに来てくれる方もいました。また、地域の方からの提供品が多く集まり、協力団体のブースとともに盛り上がりました。提供品の売り上げを東日本震災支援と看護学校の建設資金に充てています。次回の春のバザーでも皆様にお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。（原澤）

◆バングラデシュにおける日本の科学技術教育協力・助成とは（10/17）

バングラデシュ国際協力推進会主催のシンポジウムが 10 月 17 日に九州工業大学戸畑キャンパスで行われた。現在のバングラデシュの人口構成は 1965 年の日本と同じである。バングラデシュでは 10 歳から 14 歳の人口層が一番多く、この世代の人たちに技術を教えれば日本と同じようにバングラデシュも高度経済成長を遂げることができるのではないか、そのために日本として、日本の大学として何ができるかを探ることがシンポジウムの目的である。数回に渡って話し合った結果、九工大副学長の小田部教授の指導のもとで、まずシンポジウムを開催することになった。九大、九工大、日経大、阪大、山口大、広大などの関係者、学生や会社員など 50 人が参加。興味深いシンポジウムだった。工学系の大学を作れないか、その必要性は、などが話し合いの内容であった。最近、看護教員を養成する機関、同時に看護と技術を合体させた大学院研究機関の必要性も表になってきている。（ラフマン）

◆地球市民どんたく 2015（11/15）

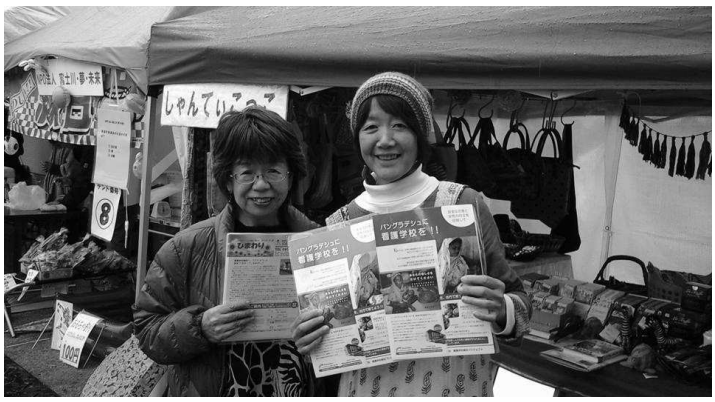
今年で 17 回目を迎えた地球市民どんたく。ここ数年、私はずっと参加したくても参加できなかったのですが、今年やっと行くことができました！来場者の年齢層が幅広く、親子連れや高校生、会場でお手伝いしていたボランティアの学生や、お隣のブースにも大学生がいて、若い人たちも参加していることに嬉しく感じました。民族衣装を着るコーナーでは滅多に着ることのない衣装に女の子たちで賑わいました！（私も韓国の衣装チマチョゴリを着てみました）ブースではパネル展示、民芸品・紅茶の販売を行いました。また手をつなぐ会から代表して堀さんがオカリナ演奏を披露し、会場も盛り上がりを見せました！このイベントは市民の皆様にまず会のことを知ってもらう良いきっかけになりますし、私も国際協力について勉強になる興味深いものになりました。来年もぜひ参加してみたいです！（伊藤）

◆小林レイ子さんを囲む会（12/5）

バングラデシュで事件があり、バングラ行きを延期していた小林レイ子さんを福岡に招待し、小林さんの活動の話を聞かせてもらい、オカリナの演奏を披露しました。翌日は太宰府天満宮、九州国立博物館、光明禅寺にお連れしました。寺の紅葉がとても美しかったです。久しぶりの休暇をゆっくり愉しんでいただきました。手をつなぐ会の皆様に大変な歓迎を受け、その暖かい歓待に何度も感激のご様子でした。

「私の生活の拠点、自分の居場所は、バングラです」
そう言いきるレイ子さんは、諸事情のため予定日を過ぎてもバングラに戻ることが出来ず、不安な日々を過ごしながらも「福岡行き」を希望し、来福してくださいました。そこで「小林レイ子さんを囲む会、音楽を奏でながら🎼 癒しの夕べ」と題して交流会を開催。レイ子さんの心をなぐさめたいと「会」のみなさんの手作り料理と、二ノ坂夫妻のオカリナと牟田さんのギター演奏を披露しました。温かい会場の雰囲気の中、レイ子さんのプレゼンの内容、TV 放映、会に対する気持ちなど自己紹介を交えながら、意見交換をしました。

交流会を終えて思うこと・・
異文化を知るということ、日本で当たり前の事が他国では当たり前ではない。それらは面白くもあり、やりがいがある事だと思いませんか。考え方や慣習の違いに遭遇した時、更にその奥にある歴史的、文化的背景を知り「忍耐と理解」を深めあう努力を続けて行けば、共通の考え方を見出せるのではないでしょうか。両国は、これからも相互理解を深めながら共に信じ合い支え合うパートナーでありたいと願っています。（河村）



カラムディ村だより

【ションダニ病院】

医者・看護師の雇用の不安定が続いている。昨年 11 月末に医師が退職、翌日に新しい医師が着任。Dr. Saiful Alam Sarker （31 歳）は Dhaka Premier University of Technology という私立学校を卒業し、しばらくダッカ郊外の経済特区で仕事をしていた。Dr. Saiful はダッカ大学でエコーの研修を受け、資格を持っている。2 人の新しい看護師も就任。彼女たちは近くの Bamondi のクリニックで働いていた。しかし普通の病院で働きたく、ションダニに応募、そして就任した。Dr. Saiful は自分が 24 時間の医者であると宣言。いつでも対応すると決心。患者さんとよくコミュニケーションをとり、人間関係を重視している。その結果、毎日 20 人以上の患者が受診、リピータも半分。収入も増加。一般的に冬期には患者さんが少ないが、12 月には 11 月の 1.5 倍になっている。このまま続けば、ションダニは村人の期待に応え、信頼関係ができ経済的にも自立へ向かう。今年の活動方針として、カラムディ村のすべての小学校の生徒を対象に受診料を無料にする。検査料や薬品代は本人負担。また全生徒の検診を行う。このように村人の健康管理に努める方針だ。（ラフマン）

【助成金関係】

★JICF

公益財団法人日本国際協力財団から今年度 35 万円の補助金を受け、ジャパニスクールの教員 3 人の給料の半分を支給している。また来年も同額の補助金を受けることになっている。ジャパニスクールの関係者や地域住民を代表して感謝を述べたい。

★JICA

「バングラデシュ・ミシン教育による農村地域女性の貧困削減・社会進出」のために JICA から 996,000 円とブリヂストンのチョボラ募金から 80 万円の助成金を受け、ミシン教室の建設、ミシン 10 台の購入、ミシンインストラクターの半年分の手当に充てた。それぞれの団体に心から感謝。

※報告書がホームページで参照できます。

http://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/09_2014.html

★ブリヂストン・ちょボラ募金

平成 26 年度にちょボラ募金から 80 万円、JICA からの 96 万円の助成金、両方を合わせてションダニ・ミシン教室を建設し、ミシン 10 台の購入、工事監督者の手当、ミシンインストラクターの手当や教材費に充てた。現在 20 人の受講生が研修を受けている。また平成 27 年度にちょボラ募金から 80 万円を受け取った。ミシン教室の 2 階を増設し、図書館やパソコン室を作る予定だ。村の若者たちが集まり、情報交換し、自分のため、地域のために何ができるかについて話し合える場にする。ブリヂストンにションダニや村を代表して心から感謝する。（ラフマン）

募金のご協力ありがとうございました！
（2015年6月～11月）敬称略

【新会員紹介】
谷川裕子、富永杏花
【看護学校支援募金】
ニコニコ募金者の皆様、東秀樹、二ノ坂保喜、瀬木康博、未来文化創造ネットワーク、佐伯采美、(有)がんこ本舗、関屋じゅん子、鹿児島大学大学院、西日本国際財団、社会福祉法人 それいゆ、中野啓子、中野豊、千葉憲哉、大和生と死を考える会、倉光重昭、有吉準子、野田智子、下司栄子、福岡摂食嚥下サポート研究会、金城亜紀、チャリティヘアーサロン Nino、福間比佐子、秋山妙子、財津悠子、山崎麻子、ホスピス緩和ケアネットワーク、エーザイ㈱、㈱シンクパートナーズ、有馬敏勝、薬院異業種交流会、にのさかクリニック、社会福祉法人 白熊会、岡田澄子、田中ノリ子、筑紫女学園大学、粕屋オープンカンファレンス、山本ハルエ、大竹伸子、荒木香奈子、外園眞一・静代、北九州ホスピスの会、垣田節子、越智吉郎、榊まさ子、馬場恭子、ヘアーサロン光、窪田章子、宮辰建設㈱ あゆみの会、金宝草薬局、白井孝代、比留間洋一、瀧井タツエ、長谷方人、遠藤太久郎、小山康一、太田初美、照屋恵美子、池田嘉子、米原徳義、阪東靖記、今村志保、小さな国際交流の会、佐賀市浪漫座 みんなのコンサート、陶山紀美子、森本久美子、藤吉礼子、中園順三、縄田ミユキ、白髭豊、岡崎万寿喜、阿部智介、在宅ネットさが、深堀邦枝、松本康司、西田真紀、松尾國繁、鳥栖三養基医師会、岡本ツタエ、江藤正彦、井上千恵子、横山宏、中尾ナツノ、大脇為常、大塚都美子、森茂、山浦誠、藤川博史、大木實、吉田一代、平山智子、日本ホスピス在宅ケア研究会、三坂眞紀子、八木良子、久保田さき、古賀カツ子、元永昭子、垂水チズ子、大木ひろみ、村岡泰典、椎葉さよ子、中山暁子、城丸友子、井手喜怒子、長崎県保険医協会、森昭子、白日高歩、穂波の郷クリニック、三原朝彦、重橋亨、ふれあい訪問看護ステーション、(特活)なごみの家、古野正史、河野洋一郎、川崎秀明、久保田元、隈崎行輝、富永雅也、福岡女学院看護大学 ボランティアサークル「ぶどう」、牟田壽、小川信、太田勇司、本司文子、早良倫理法人会、小さなたねイベント、古賀光、ラフマン・モクレスール、今泉幸男・ゆみ子、井上敬子、重留新町町別学習会、得丸正英、㈱丸福運送、さわら地域チャリティひろば、九州がんセンター、九州大学大学院医療経営・管理学福岡ゼミ、㈱ダイナミクス、繁田雅弘、堤かなめ、山下昌洋、角様遺族、高橋美貴子、日本ホスピス在宅協会 全国大会 in 奄美、社団法人 高砂市医師会、大木整形リハビリ医院、春日薬局、かも川薬局 野芥店・田隈店、高砂園、さわらスイミング、クリーンビレッジテニスクラブ、なかよし眼科、杉園順代、樋口和賀子、辰巳、橋本出、清水禎子、福岡市有住公民館、九州在宅医療推進フォーラム、蓑田裕美子、一輪、シーベスト野芥店、はぴね福岡野芥、小野恵、保育園 ひなた村自然塾、社会福祉法人 もやい聖友会、上野稔幸、福山医師会、安田ふさ代、石井キミエ、丸山典良、九大尾方ゼミ、山口敦子、嬉野医療センター付属看護学校、自由ヶ丘キリスト教会、唐津赤十字病院、米原佳代子、平山正明、みどりグループ本部、藤岡美保、博多区民生委員 児童委員大会、遷延性意識障害家族の家九州「つくし」、糸島市社会福祉大会、吉田恭子、宇治松枝、満岡聰、グループホームさわやかテラス二日市、太志塾、博多区保健福祉センター 地域保健福祉課企画推進課、長尾照子
【募金】
吉川八重子、富田桂子、ビーンズ・カフェ、今村幸恵、杉本潔、倉光重昭、今給黎靖子、尹戸真司、嶌本久仁子、(有)平和タクシー、佐藤修二、河村富美子、河村貴芳、八木良子、河内英一、小山田浩定、後藤幸男、国際ソロプチミスト福岡-北、牟田壽
【旅費カンパ】山下久代、西田和子、志岐玲子、原口勝
【イベント収入】
・佐賀市浪漫座 みんなのコンサート 紅茶・民芸品：28,580円
・さわら地域チャリティひろば 紅茶・民芸品：13,050円
・地球市民どんたく2015 紅茶：5,100円

バングラデシュに届け！ オカリナの響きと私たちの思い

手をつなぐ会のイベントにいつも協力してくれている“山の音楽家 Shana”～原麻由子さんと健太郎さんご夫婦。オカリナとギターのすばらしいハーモニーが私たちの心を和ませてくれます。

Shana の発案で、看護学校建設プロジェクトを支援するチャリティ CD ができました。曲目は、七つの子、おぼろ月夜、海、浜辺の歌、赤とんぼなど日本の懐かしい歌が並んでいます。9 曲目のシャボン玉までは、Shana のお二人の演奏ですが、今回は 10 曲目に『故郷』の演奏が入っています。

なんと、Shana の弟子たち 46 人によるオカリナの大合奏です。そして、これには私、二ノ坂と妻の富士子も加わっているのです。佐賀の浪漫座で収録されたときには、みんなの思いが一つになって、バングラに届くように、と願いました。ジャケットは、佐賀の中学生のすてきな作品です。12 月 13 日にリリースされたこのチャリティ CD。<u>1 枚 1,500 円の売り上げが全額、建設募金になります。</u>自分で聞くのもよし、友人や恋人にプレゼントするのもよし、カーステレオや職場の BGM で流すのもよし。オカリナの響きと共に、私たちの思いがバングラデシュまで届くよう、皆さんもどうぞチャリティ CD の販売にご協力をお願いします。（二ノ坂）

特定非営利活動法人 バングラデシュと手をつなぐ会

バングラデシュと手をつなぐ会では、現地ＮＧＯ「ションダニ・ションスタ」とともに、バングラデシュ西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域で、25 年にわたり《教育》《保健医療》《生活向上》の分野で支援活動を行っています。

事業内容

●現地（バングラデシュ）での活動

① 教育（ジャパニ小学校、奨学金制度、子牛の奨学金プロジェクト、ションダニスクール、看護学校建設）
② 保健医療（ションダニ病院、巡回健診、サテライトクリニック）
③ 生活向上（子牛貸出制度、足踏みミシンの職業訓練）

●国内での活動

① 総会（毎年 5 月）、理事会（毎月 1 回）、看護学校定例会（毎月 1 回）による活動方針の決定や運営
② 会報誌『ミロン』を年 2 回、6 月・12 月に発行
③ 現地訪問の実施、報告会実施、報告書作成
④ バングラ料理教室、チャリティバザー、チャリティコンサートなどの開催
⑤ 出張講座や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介
⑥ 看護学校建設プロジェクト

特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会
西新事務所
〒814-0002　福岡市早良区西新 5-4-20
TEL/FAX 092-844-1369
http://tewotunagukai.com/

看護学校建設プロジェクト特設事務局
〒814-0171　福岡市早良区野芥 4-19-34
にのさかクリニック内
http://bangla-nts.jimdo.com

手をつなぐ会の活動全体の支援
ゆうちょ銀行　01720-2-10442
特定非営利活動法人
バングラデシュと手をつなぐ会

看護学校建設プロジェクト支援
ゆうちょ銀行　01760-5-142322
バングラデシュと手をつなぐ会看護学校

※ 今後の行事予定 ※

2 月 7 日（日）アイルランドの風コンサート 2016
4 月 24 日（日）さわら地域チャリティひろば
5 月 14 日（土）、15 日（日）
国際協力フェスティバル in 能古島に参加予定
5 月 29 日（日）定期総会

※ 看護学校建設プロジェクト事務局から ※

◆◆◆◆　新しい仲間が加わりました！　◆◆◆◆
2015 年 9 月から看護学校建設プロジェクトの会計を担当している末岡智子です。人と人との出会いを大切にしながら看護学校建設に向けて頑張っています。どうぞ宜しくお願い致します。

会報名　ミロン 138 号　2016 年 1 月発行
※「ミロン」は、ひとつになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。
発行責任者　二ノ坂 保喜（バングラデシュと手をつなぐ会 代表）　　監修・編集　原澤 陽介